

# 同等品証明書

液体クロマトグラフー質量分析計

		添付資料 番号
メーカー名		
機種名	液体クロマトグラフ 質量分析計	
全体	ハロ酢酸の測定について、別紙4の要件を満たすこと。	適・不適
	陰イオン界面活性剤の測定について、別紙4の要件を満たすこと。	適・不適
	フェノール類の測定について、別紙4の要件を満たすこと。	適・不適
	農薬類の測定について、別紙4の要件を満たすこと。	適・不適
	PFOSおよびPFOAの測定について、別紙4の要件を満たすこと。	適・不適
液体クロマトグラフ	2液以上を送液可能であること。	適・不適
	超高压対応(最大使用可能圧力15,000psi以上)であること。	適・不適
	流量範囲は0.01~2mL/minの範囲を含むこと。	適・不適
	オンライン脱気装置を有しており、あらかじめ移動相溶媒を脱気しておく必要がないこと。	適・不適
	送液ラインの移動相溶媒置換機能を有すること(バージができること)。	適・不適
	注入量範囲は0.5~50 $\mu$ Lの範囲を含むこと。	適・不適
	サンプルニードル洗浄機能を有すること。	適・不適
	容量1.5mLのバイアルを72個以上収納可能であること。	適・不適
	サンプルの冷却機能(4℃程度)を有すること。	適・不適
	温度制御可能な範囲として、室温程度~45℃を含むこと。	適・不適
	最大6本までカラムを接続でき、流路をバルブで切替え可能であること。	適・不適
	ディレイカラムを経由する流路と経由しない流路をバルブで切替え可能であること。	適・不適
イオン化部	イオン化法として、エレクトロスプレーイオン化法(ESI法)および大気圧化学イオン化法(APCI法)の両方に対応できること。また、それぞれのイオン化法において、ポジティブモードとネガティブモードの同時測定が可能であること。	適・不適
	質量分析部の真空を保った状態のまま、イオン化部のメンテナンスが可能であること。	適・不適
	対応可能な流量範囲としてESIで0.01~2mL/min、APCIで0.2~3mL/minの範囲を含むこと。	適・不適
質量分析部	高感度な定量分析に適したトリプル四重極型であること。	適・不適
	質量範囲はm/z 5~2000の範囲を含むこと。	適・不適
	スキャンスピードは12,000Da/sec以上であること。	適・不適
	フルスキャン、プロダクトイオンスキャン、プリカーサーイオンスキャン、選択イオン測定(SIM)、選択反応測定(SRMあるいはMRM)が可能であること。	適・不適
	Dwell timeは最小1msec以下であること。	適・不適
	ポジティブモードとネガティブモードの切替え時間は5msec以下であること。	適・不適
	クロストーク抑制のため、コリジョンセルにイオン加速機能または同等の機能を有すること。	適・不適
	定量分析(SRM)を行いながら、検出された化合物の定性のためにプロダクトイオンスキャンベクトルを取得でき、1回の測定で定量と同定確認が同時に行えること。	適・不適
	定性のためのスキャン分析を通常よりも高感度に行う可能なイオントラップ機能を有すること。	適・不適
		質量分析計内部の汚染を最小限に抑えるために、分離カラムからの溶出液を必要な時間帯のみ質量分析計内部に導入できる機能を有すること。
	必要なガスは窒素ガス発生装置にて供給可能であること。	適・不適
	脱溶媒はイオン源内で完了させオリフィスを用いてイオンを導入できる構造とし、非キャビラリータイプであること。	適・不適
発室装置	質量分析計が必要とする純度、流量等のガスを供給できること。ポンベ等を併用しない仕様であること。	適・不適
ソフトウェア	液体クロマトグラフおよび質量分析計の制御および測定結果の解析ができること。	適・不適
	定量解析が行えること。	適・不適
	MRM条件の自動最適化機能を有すること。	適・不適
	MRMにおいて、定量用イオンと確認用イオンの面積値等の比率を自動計算し、対象化合物の同定確認ができる機能を有すること。	適・不適
	化合物ごとのスペクトルをライブラリとして保存でき、また、得られたスペクトル等の情報からそのライブラリ内を検索、照合できる機能を有すること。	適・不適

機器の構成および性能については、上記のとおりであることを証明します。

令和 年 月 日

滋賀県企業庁長 様

住所  
(所在地)  
商号  
(法人名)  
氏名  
(代表者職氏名)